



桜井 正光

副代表幹事
社会保障改革委員会 委員長

リコー 取締役社長執行役員

国会へ提出された医療制度改革関連法案の成立をもって、年金、介護、医療と一連の改革が行われたことになる。しかしながら、どれも本来目指すべきゴールへは到達していない。また、一体的改革の姿はまだ見えてこない。6月に予定される「骨太の方針」の策定にあたっては、その全体像と実現へ向けた道筋が示されることを期待したい。

社会保障制度の基礎が築かれた高度成長期と、現在そして将来とでは、社会経済の構造が量的にも質的にも大きく変化しており、このことは、改革に際して、原点に立ち返った議論を求めている。

社会保障は何のためにあり、どのような機能を果たすべきなのか。公的な保障範囲と私的に対応する部分はどうかあるべきなのか。そうした判断の立脚点は何か。2005年度の社会保障改革委員会では、ここを基点に持続可能な制度の実現へ向けた抜本的かつ一体的改革の具体像を描くために、議論を重ねてきた。

これまでの価値観や論理では、抜本的改革には

至らない。「手厚い保障から身の丈の保障へ」、「世代間共助から各世代自立へ」といった転換を図るとともに、「中央から地域へ」、「官から民へ」という流れを加速することも求められる。

次に、一体的という意味を考えれば、財政、税制、産業発展政策等と社会保障との整合性や補完性を再設定しなければならない。また、各社会保障制度間の公平性や効率性の大幅な見直しも必要である。誌幅の都合により詳細は語れないが、公私の役割分担を各制度本来の機能に即して考え、公的に保障すべき部分への確実な給付と過ぎた部分の是正が必要であることを強調したい。これは、換言すれば、社会保障制度全体を貫く考え方に基づいて、ナショナル・ミニマムのあり方を見直すことに他ならない。一般に社会保障は、税を財源とした所得再分配と、保険による集団でのリスク分散とに大別される。政府の役割は、市場では困難な公平性を達成するための所得再分配（基礎年金等）や、市場では十分に機能しないリスク分散（医療保険等）等に限られるべきである。

Contents

巻頭言 桜井正光	社会保障改革のあり方に関する一考	001
特集 座談会	新しい副代表幹事・専務理事を囲んで ～日本経済活性化の礎を築くためには～	002
委員長・座長インタビュー	行政改革委員会 丹羽宇一郎 政府部門B/S改革プロジェクト・チーム 渡辺正太郎	009
リレートーク 村上雅彦	親子の千日修行	011
経済同友会最前線	2006年3月（第76回）景気定点観測アンケート 他	012
同友会スケッチ	2006年3月の記録と5月の予定	019
新入会員紹介	2006年3月17日現在の入退会者	021
私の思い出写真館 児玉幸治	富士山に上る	022